

卵子凍結説明書

説明の内容

診断：

1) 病気の治療と卵巣機能の低下の関連性

今回行われる予定のがん治療（抗がん剤、放射線療法、手術療法）は卵子の消失（卵巣機能不全）をきたし将来子供を持つ事が困難になる可能性があります。治療前に卵子を凍結しておくことで、治療が終了し子供が欲しいと願ったときに妊娠の可能性を残しておくことができます。

2) 病気の状態・予後（がん治療医との連携）

がん治療医より、以下の点について情報を文書でいただく必要があります。

- ・ がん治療を終了してからの健康状態が良好であると判断されていること
- ・ 卵子凍結を行うことががん治療の不利益ならないという判断がされていること

3) 卵子凍結ががんの予後に影響を及ぼす可能性

乳癌や子宮体癌など、がんの種類によっては、女性ホルモンの上昇によりがんの増大や再発に影響を及ぼす可能性があります。そのリスクをできるだけ避けるため、女性ホルモンを上昇させないホルモン剤を併用して排卵誘発を行います。

4) 卵子凍結の実際

- ① 排卵誘発剤を内服、または注射により複数個の卵胞を発育、成熟させます。
- ② 局所麻酔または静脈麻酔を行い、超音波で卵巣を確認しながら卵子を採取します。
- ③ 採取された卵子は凍結し、液体窒素中に保存します。
- ④ 卵子採取に関しては、排卵誘発を併用した場合は卵巣過剰刺激症候群の発症、採卵に伴う出血、骨盤内臓器の損傷、感染症の危険性、麻酔薬による副作用などが考えられます。また、穿刺をしても凍結可能な卵子を採取できない可能性もあります。

5) 未受精卵子を用いた体外受精の実際

- ・ がんの治療が終了し、妊娠の希望が生じた時点で卵子を融解し、顕微授精で受精させ、体外で培養し、子宮に移植します。

6) 凍結卵子により将来妊娠する可能性と妊娠した場合のリスク

- ・ 卵子を凍結した際、凍結にともなう障害が生じることで、融解後に使用することができなくなることもあります。
- ・ 凍結融解した卵子の体外受精の受精率、妊娠率の生成期は新鮮卵と変わらないと報告されています。
- ・ 未受精卵子を使用した児に関して、染色体異常・遺伝子異常が誘起される事に対する安全性は完全には確立されておりません。また、次世代への遺伝学的な異常を伝播する可能性等もあります。

・

7) 凍結卵子の保存期間と保存期間を過ぎた場合の取り扱い

- ・ 凍結保存は1年単位の契約とします。死亡、凍結期間延長の申し出がない場合、連絡がつかない場合、女性の年齢が生殖年齢を超えた場合(当院では50歳以上)は廃棄されます。

・

8) 保管責任について

- ・ 地震、火災、犯罪などによる直接的・間接的な要因により、凍結保存の続行が不可能であった場合には、一切の賠償責任は当科では負いかねますことをご了承ください。
- ・ 当院の都合により体外受精・胚移植を終了する場合、保存胚の処置についてご夫婦と相談が必要となります。その際は当院よりご連絡を差し上げます。
- ・ 今後、保管状況の変更などがある場合には、同意書、保管料金などの更新や変更があり得ますのでご承知ください。

9) 費用、その他

- ・ 卵子凍結にかかる費用はすべて自費であり、およそ30万円かかります。
- ・ 当院は、日本産科婦人科学会の生殖補助医療(体外受精、顕微授精、胚凍結・融解、胚移植)実施施設として登録しているため、その実施に当たっては学会

への報告および成績の公表が義務付けられています。個人情報の保護に関しては最大限の配慮をいたしております。学会等への報告に当たっても、個人が特定される情報を報告することはありません。

- ・ 今後、保管状況の変更などがある場合には、同意書、保管料金などの更新や変更があり得ますのでご承知ください。

・

10) カウンセリングの提供

がん治療を行う前に卵子凍結を行うかどうか、納得のいく治療法を選択するためにカウンセリングの機会を提供いたします。

私は、
殿に対して、上記卵子凍結についてその利点とリスクについて説明いたします。

説明日 : 西暦 年 月 日

琉球大学医学部附属病院

診療科 産婦人科 説明医師名

卵子凍結 同意書

医療行為名： 卵子凍結

説明日： 西暦 年 月 日

説明医師 診療科 産婦人科 医師氏名 印

同席医師 診療科 医師氏名 印

同席看護師 診療科 看護師氏名 印

琉球大学医学部附属病院殿

私は、卵子凍結による利点、リスクについての説明を受け、同意しました。

同意日:西暦 年 月 日

患者氏名 印

〒

住所

電話番号

親族または代理者

(親権者、父、母、配偶者、兄、姉、妹、保護義務者、法廷代理人、その他)

〒

住所

電話番号